



ふるさと上越ネットワークたより

編集・発行 ふるさと上越ネットワーク事務局

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-1-2

TEL.03-5244-5138 FAX.03-3294-6106

●本庁担当:上越市自治・市民環境部 共生まちづくり課

〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-526-5111 (内線1406) FAX.025-526-6114

ホームページ⇒

ふるさと上越



菜の花と米山 撮影:渡辺信行さん

「たより」No.279 目次

会員数とふるさと市場報告	1
Jネットの活動とお知らせ	2
同窓会・郷友会.....	3
とれたて上越.....	3
・上越の行事・展示会・上越の話題	
底力(そちから)上越.....	5
上越の地に咲くひまわりへの想い	
社会福祉法人上越つくしの里医療福祉協会 理事長 川室 優	
いにしえ上越.....	6
桑名と高田の縁	榎野 昇
上越産品販売のお知らせ	7
鯉橋師匠高座予定	7
俳句ひろば	7
Jネットからのお知らせとお願い	8

※ホームページ

「ふるさと上越ネットワーク」では、「たより」を全ページカラーでご覧いただけます。

会員数と「ふるさと市場」販売報告

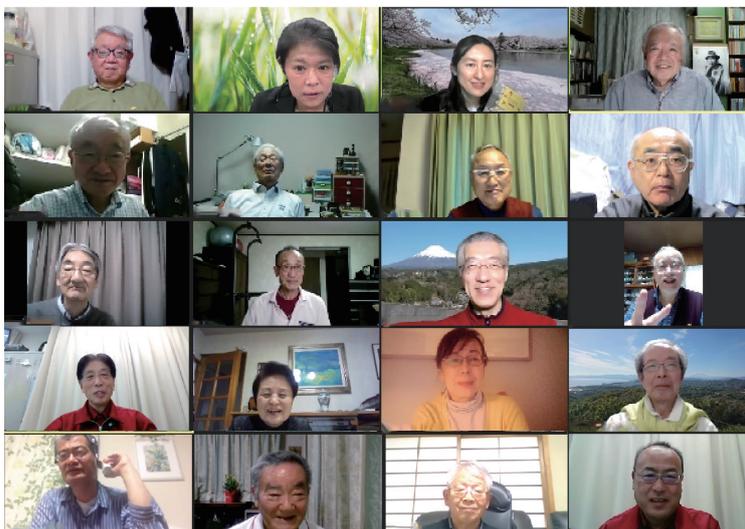
(1) 会員は601名(5月25日現在)です。(令和4年度目標610名)

(2) 「ふるさと市場」の販売取次状況(令和4年4月) 41点 91,451円 (前年同月 60点 114,503円)

1. サロンは、令和4年5月12日（木）、6月9日（木）オンラインで開催

次回は、令和4年7月14日（木）。ぜひご参加下さい。

5月サロンも、話は多岐にわたり、ご夫婦やお孫さんとのふるさと行き、地元の小学校や海の森で



のボランティア、ウイルス抗体、他地域でのふるさと大使など、興味深く伺いました。なかでも、露国のウクライナ侵攻という状況下、T会員より、オリンピックは戦争回避のため開催、スポーツの根源は人権の尊重にありとの話には強いインパクトがありました。6月のサロンは、今号に掲載が間に合わなかったため、次号にて報告の予定。

5月12日、
オンラインサロンへ参加のみなさん

【次回以降のサロン】

サロンは、毎月第2木曜日に開催、全国どこからでも参加でき、アルコール片手に、中座も自由、勝手なことを勝手に言える集まりです。ご参加大歓迎。

次回：令和4年7月14日（木）、8月11日（木）。いずれも17：15－19：00。

（オンラインにて開催）。お申込み：事務局宮里 k.miyazato@araipt.co.jp まで。URLをお届けします。ご参加は超簡単、届いたURLクリック2回で参加できます。未体験者には、事前に操作方法もお手伝いしますのでお気軽にご参加ください。

【実際のサロンの再開】

目下、再開を検討中です。ご意見を頂戴できれば幸いです。再開は、「たより」、HP（ホームページ）をご覧ください。事務局にお問合せください。

2. 令和4年度定時総会は書面開催

コロナ禍の現状に鑑み、本年度の定時総会も、3年続けて、書面開催とします。まことに残念ですが、ご了承ください。「たより」本号6月10日号にて総会資料と表決書を同封し、会員の皆様のご決議を仰ぎます。6月24日（金）までにご投函ください。

本総会決議の結果は、当会HPおよび「たより」7月25日号にてお知らせいたします。

3. 是非とも、ご寄稿ください。—当会創立25周年「たより」特別号への寄稿

当会は1997年7月30日に創立、本年は、創立25周年を迎えます。その記念事業として「たより」特別号を発行します。会員の皆様にも、「会とご自身のこと、上越について思い出や想いなど」をふるってご寄稿いただきますよう、お願いいたします。寄稿の要領の詳細は、同封のお知らせをご覧ください。

4. いま旬のホームページ（HP）をご覧ください。

おかげさまで、JネットHPの閲覧は、国内、海外を合わせて大きく増えております。内容も、上越市の四季の写真他、次のように掲載は多様です。ぜひとも、「ふるさと上越ネットワーク」を検索し、ご覧ください。

- ・お知らせ：上越関連TV放映や、上越産品販売のマルシェと雪國商店などの話題。
- ・チャレンジ上越、とれたて・なんでも上越：「たより」掲載の上越記事など。
- ・「たより」：全頁カラーで過去2年分を掲載。・フォトギャラリー：上越の四季の写真多数。
- ・他HPへのリンク：上越市、上越観光ナビ、当会特別賛助会員7社のHP。

Jネット会員は、上越タイムス電子版ならびに上越ケーブルビジョン（JCV）の動画を閲覧できます。上越妙高エリアの今をお楽しみください。

◎上越タイムス電子版、上越ケーブルビジョンへのアクセス方法（会員のみ）

- ① HP右肩「Jネット会員メニュー」をクリック
- ② 「ログインはこちら」をクリックし各社のHPへ
- ③ 下記のID・メールアドレス・PSWにてログインしてください。



「上越タイムス全頁を閲覧する場合は、同紙面から、PDFをクリックしてください。」

同窓会・郷友会

会員郷人会の役員交流 東京新潟県人会

東京新潟県人会は、県人会や郷人会の活動の盛り上げを図るため、同会会員の郷人会82団体について、13グループに分けて、役員交流を実施。

第1回として、5月25日、上越グループ8団体のうち、当会、えちご妙高会、東京糸魚川会、東京浦川原会、東京吉川会の5団体出席。県人会との交流や各会活動について、幅広く情報交換を行うとともに県人会も加わりお互いの懇親も深めた。

とれたて上越

1. 上越の行事・展示会

(1) 高田城址公園観蓮会 開催期間：令和4年7月16日～8月21日

高田城址公園のハスは戊辰戦争や凶作により貧窮した高田藩の財政を立て直すため、外堀にハスを植えレンコンを育てたことがはじまり。

高田城址公園の外堀、東京ドーム4個分の規模で埋め尽くすハスは、美しさ、規模ともに東洋一とうたわれています。早朝には堀の随所で、蓮が開花する音が広がります。



(2) 第 47 回上越まつり

今年の上越まつりは、コロナ禍の制限があるもの、ほぼコロナ禍以前のような流儀やスタイルで開催されます。3年ぶりのことです。

① 高田祇園祭と直江津祇園祭

前半は高田地区（祇園神輿渡御と神輿川下り）、後半は直江津地区（大花火大会、屋台巡行、大民謡流し、お饅米奉納）をメインに開催。なかでも見所は神輿（みこし）の川下りと大花火大会。高田地区内を巡行した神輿が川下りを行なっている最中に、海中スターマインや豪華スターマイなど各種スターマインに、尺玉やナイアガラ滝など約 5,000 発の花火が夜空を彩る大花火大会を実施。花火とみこしの川下りを同時に見られるとあって人気を集めています。

照会先 上越まつり委員会（上越観光コンベンション協会）TEL 025-543-2777

オープン期間：4月29日（金・祝）～11月3日（木・祝）

② 第 97 回謙信公祭 期間：8月20日、21日

20日に狼煙上げ、献納米合戦、武禊式、21日は、規模縮小し、出陣行列・川中島合戦の再現を実施の予定。

2. 上越の話題

(1) 義の口福箱（こうふくばこ）」が大日本水産会長賞を受賞 魚住かまぼこ店

本年3月開催の全国蒲鉾品評会で、魚住かまぼこ店の「上杉謙信公『義の口福箱』」が見事、大日本水産会長賞を受賞。

店主の田村博氏によれば、「カラムシは、謙信公が財源とした『青苧（あおそ）』の材料」をヒントに開発。カラムシの若芽を練り込み、各々、金箔と銀箔を表面に施した蒲鉾2本を特注箱に入れて、商品化。少しお高い（税込み 5,400 円 / 箱）ものの、慶事御進物や贈答品として大変喜ばれている。



(2) 第 96 回国展（写真の部）松本栄規会員 入選

令和4年、松本栄規会員の写真が、見事、国展に入選しました。5月国立新美術館（六本木）に展示され、好評を博しました。

「何人もの人生が通った跡、『軌道』

うっすらと見えるアスファルトの地面に、春の訪れを感じます。」



題名 『軌道』

(3) 写真集「雁木のある街 高田」の発刊と配布

越後高田雁木ネットワーク

江戸時代から続く、全長 13 km の高田の雁木は、日本一の長さもさることながら、その独特の景観美も秀逸です。

その貴重な資産の保存と活用にあたる「越後高田雁木ネットワーク（高野恒男会長）」は此度、「雁木のある街」を発刊しました。令和元年度からの第3弾です。一般募集の写真を掲載した本写真集は、大好評を得ていますが、此度も、同会よりご寄贈いただきましたので、当会会員の皆様には、同封してお届けします。ご関心のあるお知り合いにもお伝えください。

なお、若干、余部もありますので、事務局（宮里）までご連絡ください。

豊かな歴史と文化、恵まれた風土に培われた上越の底力。その底力が、原動力となって、さらに新しい上越が創られます。当「たより」でも、そうした底力を発揮した活動や営みを紹介していきます。

今回は、自身の土地を活かして、障がい者支援とともに地域への貢献に取り組んでいる上越つくしの里医療福祉協会（川室記念病院）の活動を紹介します。

上越の地に咲くひまわりへの想い

社会福祉法人 上越つくしの里医療福祉協会
理事長 川室 優

上越市諏訪地区の『つくしファームひまわり畑』。

元は昭和40年代に川室記念病院が農耕・園芸療法を行ってきた場所でしたが、この土地を活用することで地域を活性化することができるのではないかとスタッフと共に考え、平成22年にひまわりを植え『つくしファームひまわり畑』が誕生しました。

以降、地域の方々にもご理解とご協力を賜り、毎年少しずつ面積を増やし、点在型ではありますが合計2ヘクタール以上もの畑に約10万本のひまわりを咲かせています。毎年夏には越後ひまわり祭を開催し、地域の方々と共に大輪のひまわりを楽しんでいます。



ひまわり畑のたまりソース

現在は、障がい者の働く場としてひまわり畑を利用し始めました。平成26年にはひまわりの種から試験的に搾油を行い、令和元年には農林水産省の交付金を活用し、ひまわりの種から食用油を精製する搾油施設「つくしひまわりステーション」を開設しました。

令和3年には上越市三和区の老舗味噌蔵「あおき味噌」様とのコラボレーションにより、味噌だまりとひまわりオイルを組み合わせた調味料「ひまわり畑のたまりソース」を開発、販売に至りました。

このように、今後はひまわりの活動をとおり、地域への貢献と共に、栽培・製油・製品化・販売という6次産業化に障がい者と共に取り組んでいきます。

地域や市民の皆様により一層、広く関心を持って頂けるような『つくしファームひまわり畑』の実現を願っております。

今後、ご支援、ご協力をお願いいたしますと共に、ひまわりの国・ウクライナの国民の幸せと世界の平和を祈ります。



つくしファームひまわり畑

我らがご先祖様たちの縄文時代からの営々とした歴史は、多様性に富んでいます。

今回は、高田藩が、越後騒動で越後中將家改易後入封した4家のうち、榊原家の1代前に桑名から入封した久松松平家について、桑名にお住まいの榊野昇会員より、ご寄稿いただきました。

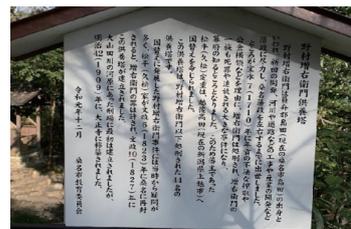
ご実家のお隣は偶然にも、同じ榊野姓ですが、お隣の榊野家は桑名藩のお抱え藩士の末裔であり、桑名と高田を結ぶご縁の証人でした。

桑名と高田の縁

榊野 昇 高田出身 (三重県桑名市在住)

私は長年、三重県の桑名市に住んでいます。桑名と高田、桑名藩と高田藩の関係は色々ありますが、その一部をご紹介します。

伊勢桑名藩7代目の藩主久松松平定重は1710年に越後高田藩11万3000石へ移封された。その理由は家中の野村増右衛門が公金横領したことへの処分が重すぎると幕府の不興を買ったため。



野村増右衛門供養塔 桑名市播磨大正寺

写真右は桑名市播磨大正寺の野村増右衛門供養塔です。その後、高田藩主としての松平氏は定重、定達(さだみち)、定輝、定儀(さだのり)、定賢(さだよし)と5代続きますが、1741年に定賢の代に陸奥白河藩11万石へ移封となります。その後、定邦、定信、定永と続いた。松平定信は1812年に家督を長男の定永に譲って隠居したが、なおも藩政の実権は掌握していた。

1823年に定永時代に行なわれた久松松平家の旧領である伊勢桑名藩への領地替えは、定信の要望により行われたものとされている。この後、増右衛門の罪は許され、1827年にこの供養塔が建立された。なお、定賢が高田藩から白河藩への移封の際には柏崎は白河藩の飛び領とされ、更に白河藩から桑名藩へ移封の際にも引き続き柏崎は桑名藩の飛び領とされた。



柏崎日記と桑名日記

その関連で「柏桑日記」というのがあります。実際は「柏崎日記」と「桑名日記」があり、桑名藩の渡部平太夫と柏崎へ赴任した義理の息子、勝之助が取り交わした日記で1839年から10年間毎日欠かさず交換したそうです。桑名図書館に原本があるそうで、勝之助は妻と共に柏崎に赴任し、その長男は祖父の平太夫夫妻に桑名で育てられたので、桑名や柏崎の毎日の天候に始まり、それぞれの生活の話のやり取りが多く書かれています。それは現在の単身赴任に通ずるところがあり、「幕末転勤傳」や「いるるははしる」という小説や童話になったり、「NHKスペシャル」の「幕末転勤物語、150年前の家族日記」で紹介されています。当時の桑名の人は越後柏崎の米を食べていたこととなります。この父親、渡部平太夫の墓が桑名の法盛寺にあります。

もう一つの話です。1980年代の頃ですが、桑名在住の松本正利さんという方から電話をもらい「あなたは榊野といわれるが、新潟県高田の方ですか」と訊かれ、「そうです」と答えると、「桑名藩のお抱えで刀の鏢を作った榊野という人がいます」との話。その時は「その人は私の先祖ではありません」と答えましたが、昔、高田の実家の隣の榊野時計屋さんの先祖が桑名藩であると聞いたことを思い出しました。

その後、高田へ帰省した折に隣の当主の榊野秀直さんに聞いたら「桑名のお抱え藩士」ということでした。この松本正利さんは松雅亭の主人で、私も1960年半ばに仲間と一緒に3-4回飲みに行った料亭で、その頃、刀の趣味があると言っていたなーと思い出した。

1990年代には12年ほど海外勤務でしたので、その件を忘れていたが、2015年頃に名古屋Jネットの太田四郎さんから「桑名藩・榊原藩抱え工 榎野直信考」という論考のコピーをもらいました。これは榎野秀直さんと同じ町内で同じ時計屋仲間の種岡幸治さんが調べて書かれたものです。

それによると榎野秀直家の墓のすぐ横に大きな直信の墓があったそうです。墓碑によると、榎野直信は1819年生まれで、1872年に53歳で没したそうです。種岡氏によれば「高田・桑名両藩の複雑な関係の中で、直信は高田に居住し、近くの柏崎の桑名陣屋に出入りし、更に桑名まで行ったりして両家の藩士の求めに応じて作品を造り、桑名藩の抱え工となったものと思われる。」とあります。最近、榎野秀直さんに伺った話では過去に手に入れた榎野直信の作品数点を桑名市博物館に寄贈したそうです。そこで、博物館で伺うと、2020年に「三重刀剣紀行」を発行しており、それに「忠」の字を含む10点の直信の作品が写真で紹介されていた。

念のため申し添えると、私の祖父・父は津有村の戸野目の出身で隣の榎野時計屋（秀直さん）とは親戚ではありません。祖父母と父は大正時代に台湾から高田に戻り、全く偶然に隣同士になったようです。



忠之字鐳 榎野直信 桑名市博物館蔵

上越産品販売のお知らせ

● Jネットふるさと市場として「取次販売商品一覧」を同封します。

現行の各社パンフに加えて、取次販売商品一覧（A3版1枚）を同封にてお届けします。会員は送料無料でお取り寄せができますので、どうぞご利用ください。

● 上越特産市場

上越市運営による、上越農林水産物・特産品のネットショッピングモール「上越特産市場」です。「上越特産市場 <https://www.joetsu-tokusan.jp/login/input.php>」からご覧いただき、お申込み下さい。

● 新潟・上越妙高「うまさ直送！雪国マルシェ」

恒例の上越特産品販売の「雪国マルシェ」は下記にて予定しています。

日時 6月25日（土）、同26日（日）、
7月23日（土）、同24日（日）

会場 有楽町交通会館1F。開業時間 11:30-17:30

商品内容は決まり次第、JネットHPに掲載します。

● 常設店舗「雪国商店」 場所 有楽町交通会館1F

営業時間 11:00 - 19:00 年中無休(年末年始は休業)

雪国商店では、少しでもふるさとへ帰った気分を味わっていただくよう、品揃えをしてお待ちしております。ネットで「雪国商店」を検索してください。

♪お問合せ：JCV 東京情報センター 03 (5218) 7730

瀧川鯉橋師匠 出演予定 鯉橋：090-4730-9032 rik_yoh_taki@taupe.plala.or.jp(鯉橋メール)

◇ 6/19(日) 鯉橋の落語でひとやすみ(第37回)

時間：午後4時～5時半 木戸銭：1000円

出演：鯉橋(二席)、アマチュア前座さんの高座あり。

会場：喫茶「ひとやすみボン」(上板橋から徒歩約20分。

若木2-34-15) お問合せ：080-5544-9241(オビ)

◇ 6/21(火)～25(土) 浅草演芸ホール・夜の部

時間：午後5時～8時45分

※鯉橋は5時半ごろの出番ですが交互出演のため、出演日未定。

木戸銭：3000円 主任：瀧川鯉八 ほかに桃太郎、鯉昇、ねづつ

ちなど出演 お問合せ：03 - 3841-6545(浅草演芸ホール)

◇ 6/28(火) 七人の侍～流浪の落語勉強会～

(お江戸日本橋亭<三越前>)

午後1時～3時半ごろ、1500円。鯉橋ほか。

◇ 7/1(金)～5(火) 仙台「花座」公演 詳細未定

会場：「花座」(仙台市青葉区一番町4丁目4-23)

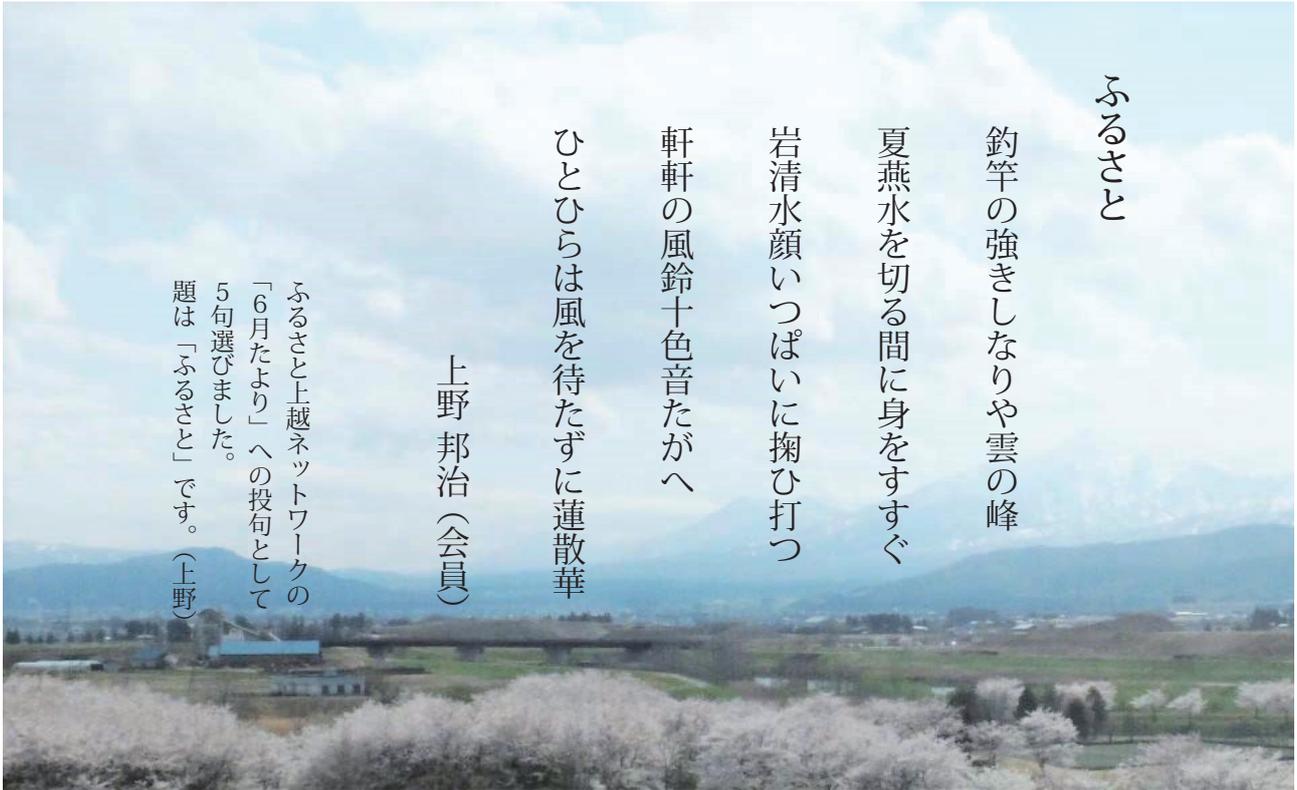
お問合せ：022-263-9608(花座)

◇ 7/6(水)～10(日) 池袋演芸場・夜の部＝鯉橋主任興行＝

時間：午後4時45分～8時半、詳細未定

お問合せ：03-3971-4545(池袋演芸場)

プログ～七転び 八起の末の ホンダラダ～ <https://blog.goo.ne.jp/rikyoh3194> もぜひご覧ください。 鯉橋拜



ふるさと

釣竿の強きしなりや雲の峰

夏燕水を切る間に身をすすぐ

岩清水顔いつぱいに掬ひ打つ

軒軒の風鈴十色音がへ

ひとひらは風を待たずに蓮散華

上野 邦治（会員）

ふるさと上越ネットワークの「6月たより」への投句として5句選びました。題は「ふるさと」です。（上野）

「上越市を語ろう」—皆様の手で上越市の魅力を発信

当会HPでも会員以外の閲覧も多く、上越に関心や興味をお持ちの方は大勢おられます。ところが、上越は意外と知られていないのが現実です。

上越応援団たる会員の皆様には、広宣の最も強力な手段「口コミ」を活用し、リモートを含むお集まりの際には、ひと言、上越についてふれていただき、上越の宣伝をしていただきたいのです。

<訂正とお詫び>

1月25日号掲載の「日本のスキー始まりと豪雪地高田の思いで」P7 猪谷千晴がアルペン競技で日本人初の銀メダルを獲得した冬季五輪は、開催年 1956年、開催地イタリアのコルチナ・ダンペッツォが正しい開催年と開催地です。訂正しお詫び申し上げます。

●●●●●●●●●● ネットからのお知らせとお願い ●●●●●●●●●●

ふるさとの懐かしい味をご紹介ください。

お正月のゼンマイ入りのお雑煮、炬燵に入っていた冬の水ようかん、上越にしかない懐かしい味です。春にはタケノコ汁ですね。鮭缶を入れるのか、いや鯖缶か……。あなたの思い出に残るふるさとのごちそうを400字/件にまとめて是非ご紹介ください。材料やレシピがあればぜひ添えてご紹介ください。

記事、寄稿、投稿、メッセージをお願いします。

会員の皆様には、ぜひとも、ご自分の経験や思い出、上越の魅力、上越に役立ちそうなこと、会員の親睦を深めることなどなんでも結構ですので、記事（1,200字程度まで）と写真を送信いただければ幸いです。皆さまの貴重なお話は、読み手を元気にします。送信先：k.miyazato@araipt.co.jp

コロナ禍の折、皆様には、くれぐれもご健康にご留意され、お過ごしください。

◎次号「たより」は令和4年7月25日の発行です。